

(4)「募金・寄付を核にしたサービス・ラーニング」 実践事例紹介

事例①小城市立砥川小学校

「石工の里を守る活動」

所在地：佐賀県小城市牛津町
学園長：岸川 敦則
児童数・学級数：157名（9学級）
教育目標：「夢と誇りを持ち 自ら学び
ともによりよく生きる砥川っ子の育成」

4年生が「総合的な学習の時間」で、郷土の歴史と伝統を守るための募金・寄付活動を実施。小学校がある地区は、戦国時代から江戸時代にかけて石仏や石塔などの石造彫刻制作で活躍した「肥前砥川石工」が住んでおり、今も、菩薩や如来などたくさんの石造彫刻が残る。平成14年に地域に文化団体が発足したのを機に連携。同団体の案内で石仏を巡り、版画カレンダーを作成、地域イベントで募金を呼びかけ、協力した市民にプレゼントする。同団体への寄付は、石仏を保護する屋根の補修、ウォーキングコースの手すり設置などに役立てられている。

カリキュラムマネジメント／授業運営の工夫

- ・版画の作成に時間がかかるので、一部は図工の時間に充てている。また、石工の歴史を学ぶのは社会科の時間、カレンダー作りは子どもたちが意欲的になったら昼休みや放課後を使うなど、他教科と連携した設計をしている。
- ・学習を始める際、教員が最初から「石工の里を守る募金をする」と言うのではなく、「みんなの地域で自慢に思うことは何か」「未来に伝えていきたい、守っていきたいものは何か」と投げかけている。子どもたちから「石工の里が自慢」「石仏を守りたい」という声が出るようにし、子どもの動機づけをしている。



石工の里ウォーク



版画作成



カレンダー作成

児童の声：

- ・募金をしてくれる人がいると、そのたびに、石工の里を守れると思いました。
- ・周りの人から「がんばったね」と言われ、やってよかったと思いました。
- ・お母さんに話したら、知り合いに言ってくれていて、知り合いの人もたくさん募金をしてくれたので嬉しかったです。
- ・新聞記者さんから、毎年この活動の記事を掲載しているが、同じ内容で掲載を継続するのは珍しいことで、読者から共感されている証拠と言われ誇らしかったです。

実施プログラム概要

- (1) 開始 : 平成 14 年度～
- (2) 単元名 : 「石工の里を守ろう」
- (3) 実施期間 : 4 月～12 月
- (4) 時教 : 40 時間 (総合的な学習の時間)
- (5) 対象学年 : 4 年生
- (6) 寄付金額 : 平成 26 年度 50,000 円
平成 27 年度 48,000 円
平成 28 年度 70,000 円
平成 14 年度からの総額 約 80 万円
- (7) 連携先/寄付先 :
[うしづ石工の里を未来に伝える会]

活動のきっかけ

- ・当初は 3 年生の社会科 (地域学習) で「石工の里」の見学をしていたが、繰り返すうちに子どもたちが石工の里を守る活動を「自分事」として認識するようになった。
- ・同じ時期に、地元「うしづ石工の里を未来に伝える会」という市民団体が発足、石仏保全等の活動を開始したこともあり、連携して 4 年生の総合的な学習の時間で、募金・寄付活動も含めた「知る、考える、行動する・広げる」という一連の流れを作った。

活動を継続するポイント

- ・子どもたちは、自分自身の体験を通してこの活動の意味を理解している。そのため、成長しても後輩の募金活動に協力するし地域社会のために自分たちが動くことの大切さも分かっている。課題は、授業を受け持つ教員がその意味を分かっているか、ということ。活動を継続するためには、教師が活動を理解し指導する力が重要。
- ・活動を行う際に、学校単独では動くのではなく、最初から地域(団体、教育委員会、住民等)を入れることが大切。子どもの教育のために地域の力を借りること、活動の良さを根付かせるための体制づくり・仕掛けをしておけば校長や教員が異動しても活動が潰れることはないと思う。



募金活動の準備



募金活動



寄付金贈呈

児童の声 :

- ・活動を通して、地域の人に積極的に質問し発表する機会が多くなり、自分の意見をしっかりと言えるようになりました。地域の人に喜んでもらえる嬉しさを知り、新しいことに挑戦したいという意欲も出てきました。

教員の声 :

- ・活動を通して、子どもたちが生き生きし、石仏の保全に役立っていることも実感でき、また「ふるさと砥川」を愛する心も育った。
- ・地域題材、地域を巻き込む活動の素晴らしさや募金・寄付活動を含めた、内容・効果・成果を他の教員に引き継いでいきたい。

〈授業の流れ〉

第4学年		2016年度				余剰時数の中で	
月	総合的な学習						
	地域・共生	時間	教科との関連	情報	時間	国際理解 (英語活動)	時間
	※「人」「文化」「自然」から構成			※児童の実態に応じた コンピュータリテラシー を位置づけている		※ALTとの活動 国際理解と コミュニケーション	
四	オリエンテーション (1)	1		タブレットパソコン を使おう	2	英語であいさつ をしよう	3
五	石工の里 砥川 について調べよう (16)	1	社会	・基本操作 ・インターネット検索		・はじめのあいさつ ・果物の名前 ・好きですか？	
	・石工の里の学習の計画を立てよう	1	「じまんできる 先人をさがそう」				
六	・石工について知ろう (ビデオ鑑賞・資料より)	3					
	・石仏をたずねてみよう	4		情報モラルについて 考えよう	2		
	・石工の体験をしよう	4		・SNSでのトラブル ・携帯電話の使い方			
七八	・平川与四右衛門について知ろう	4					
九	石工の里を守ろう (23)		図工	調べたことを まとめよう	7	英語で話そう	4
	・募金活動の準備をしよう	13	「ほったり すったり」	・タブレットの操作		・数を聞く	
十	石工の里カレンダー作成 木版画に挑戦			・フォルダの作成		・これは何？	
	・募金活動をしよう	5		・デジタルカメラ		・動物の名前	
十一				・文字を打ち込む		・英語で歌おう	
				・スタンプや背景			
				・インターネット検索			
				・タブレット・電子黒板 で発表			
				・相互発表			
十二	・石工の里をまとめよう	5					